

NEWSLETTER

四国英語教育学会

No.32
Mar. 2008

〒790-8578 松山市文京町4-2
松山大学 人文学部 寺嶋研究室内
四国英語教育学会発行

日本の英語 200 年

香川県支部長 竹中龍範 (香川大学)

今年 2008 年は、1808 (文化 5) 年にイギリス軍艦フェートン号がオランダ国旗を掲げて長崎港に闖入、乱暴狼藉を働いて、時の長崎奉行を引責自刃せしめた世に言うフェートン号事件からちょうど 200 年目の年に当たる。当時、オランダはフランスの統治下にあったが、オランダ商館はその事実を隠して日本側と交易を続けていた。長崎の出島という限られた窓口を通してしか欧州情勢を把握していなかったために、幕府では状況分析が十分にできていなかったわけである。天下泰平のときが続いていた時代であっただけに幕府の動揺は大きく、この事件の詳細を分析して下した結論の一つに、蘭通詞のなかに英語を解する者が一人たりともいなかったということが事件を大きくしたという認識があった。このため、翌文化 6 年、幕府は通詞に対して英語習学を命じた。

その成果は、『諳厄利亞言語和解』(1810~1811 年)、『諳厄利亞興学小笈』(1811 年)、及び『諳厄利亞語林大成』(1814 年)として現れるが、これらはごく僅かの部数が写本によって作られただけである。これは、1841 年にわが国最初の英文法書として、天文方見習渋川六蔵敬直によってマレーの文法書の蘭訳版から重訳された『英文鑑』についても同様で、英語に限られた範囲の人たちによってのみ学ばれていたことを示している。

この頃にはアヘン戦争の勃発(1839 年)、清国の敗北・開国(1842 年)の情報が幕府にも伝えられており、イギリスの国力が認識されていた。一方、極東地域との交易、捕鯨基地の確保をねらうアメリカは、ついに 1853 年、ペリー提督率いる黒船艦隊を派遣して日本に開国を迫り、翌年には日米和親条約を締結せしめている。このような幕末の情勢下、英語学習は徐々に広がりを見せるが、そこに流れていたのは、国防のための英語学習という目的意識であった。

国防のための外国語学習というのは、アメリカでもスプートニク・ショック後のロシア語、9・11 後のアラビア語の例のように、学習目的の一つに数えることができるが、まさに、わが国でも幕末・明初には英語学習の目的であり、これは当時の英学書の序文等にかがうことができる。フェートン号事件より 200 年の今日、英語学習の目的に国防という概念が挙げられることはないが、現在の英語学習者、あるいは、英学界にはいったいどれくらい明確な目的意識があるのであろうか。いま一度、歴史の教えるところに耳を傾けたいものである。

第 32 回 全国英語教育学会大分研究大会報告

第 33 回全国英語教育学会が 2007 年 8 月 4 日、5 日の 2 日間にわたって大分大学旦野原キャンパス（大分県大分市旦野原）において開催された。期間中天候に恵まれ、別府温泉や湯布院などの名所を巡り、温泉三昧の大会参加者も多かったのではないであろうか。私は大会 2 日目に研究発表を予定しながら勤務大学の業務との関係で十分な事前準備ができず、大分の名所や産物に関する下調べをしない状態で大会前日の夕刻に JR 大分駅に到着した。それまで、発表のことで頭が一杯かつ不安であったが、駅を出るや夏祭りの雰囲気は街一面に広がっており、気分がいくぶん和むとともに、祭りの活気がなんとも心地よかった。

その翌日から 2 日間にわたって行われた今大会での自由研究発表・実践報告は、発表件数が 190 近くに及び、多くの参加者でにぎわっていた。両日ともに 19 会場が設置され、各会場で第 1 日目 4 件、2 日目 5-6 件の発表が行われ、熱心な議論が展開された。初日私は、自分の興味関心から英語多読や教師の授業における言語使用に関する発表などを拝聴した。私が全国英語教育学会に初めて参加したときは 1993 年の夏であり、あれから 15 年近くの歳月が流れた。この間、研究発表のテーマは多様化・専門化すると同時に、現職学校教員の発表や参加もずいぶん増えたように感じる。特に小学校英語教育に関する発表や小学校教員の参加がここ数年著しく増えている様に思う。また、いつの間にか発表者が資料をプロジェクターでスクリーンに投影して発表をすることも珍しくなくなり、今回はほぼすべての発表でプロジェクターが使用されている印象を受けた。2 日目は英語教師の思考や発達・小学校英語に関する研究発表が行われた第 1 会場において発表会前半の司会を担当した。後半には自分の研究発表もあったので、気持ちが落ち着かない状態での司会進行であったが、英語教師の熟練の思考や動機づけに質的にアプローチする研究手法に多くのことを学んだ。研究の手法もここ数年でずいぶん多様になったように思う。

初日午後に行われた課題研究フォーラムでは「英語教育における小中連携」、「リスニング・スキルを高めるトレーニング」、「音読研究の現状と課題」、「発信型の英語指導の実践と成果 ライティング編」、問題別討論会では「認知心理学の記憶研究が英語理解にもたらす役割」、「音声研究・音声指導への新しい視点」といったテーマで議論が展開された。また、2 日目の午後には「日本の英語教育の将来 中学生に求められる英語の基礎体力」と題してシンポジウムが四国地区の企画で開催された。コーディネーターとして高知大学的那須恒夫先生と多良静也先生、提案者として県立高知西高等学校の山田憲昭先生が活躍された。毎年シンポジウムは大会の最終行事として位置づけられているため、最後まで残る参加者は必ずしも多くはないが、今回は例年よりも参加者が多い印象を受けた。

大会は大成功裏のうちに幕を閉じた。大会期間は疾風のごとく過ぎ去ってしまうが、今大会にも関係者の方々の長い歳月をかけた準備と労力が詰め込まれている。この場を借りて深く感謝の意を表したい。次回大会（第 34 回東京研究大会）は 2008 年 8 月 9-10 日に昭和女子大学において開催される予定である。（鳴門教育大学 山森直人）

平成 19 年度 四国英語教育学会理事会・総会報告

理事会報告

平成 19 年 6 月 23 日(土)、標記理事会が愛媛大学教育学部において開かれ、下記の事項が審議された。

議 事

議題 1．役員改選について

高知県の西村淑子氏（高知工業高等専門学校）の退職に伴い、新たに会計監査役として大村潔氏（西条市立西条南中学校）が選出され、承認された。また、高知県代表理事が門田幹夫氏（高知工科大学）から那須恒夫氏（高知大学）に交替することも承認された。

議題 2．平成 18 年度会務・決算報告並びに会計監査報告について

平成 18 年度会務報告並びに下記の会計決算報告・同監査報告があり、承認された。

< 収 入 >

前年度繰越金	747,432
会費振込	379,000
全国英語教育学会より	257,000
紀要掲載料	40,000
全国学会会費預り金	118,000
その他（紀要販売）	21,000
合計	1,562,452

< 支 出 >

印刷費	93,425
通信費	50,780
雑費	15,821
全国学会会費	118,000
次年度繰越金	1,284,426
合計	1,562,452

議題 3．平成 19 年度会務・予算案について

会務並びに予算案が事務局より次のとおり提示された。

今年度より、支出として新たに全国英語教育学会理事会出席のための補助と、紀要査読料が追加された。前者に関して、今年の場合には理事会開催場所が仙台であり、今後も遠方での開催が予想されるため、交通費として一部本会より補助が必要ということで承認された。後者に関しては、議題 7．紀要編集委員会報告のとおりである。

< 収 入 >

前年度繰越金	1,284,426
会費振込	450,000
全国英語教育学会より	50,000
紀要掲載料	40,000
その他（全英教学会費預り金）	110,000
合計	1,934,426

< 支 出 >

四英教愛媛研究大会補助金	50,000
印刷費	215,000
通信費	120,000
雑費	100,000
紀要査読料	96,000
全英教役員会出席補助	90,000
その他（全英教学会費）	110,000
予備費	1,153,426
合計	1,934,426

議題4．平成20年度（第20回）研究大会について

次年度の研究大会を高知県支部の担当で、高知大学にて6月21、22日に開催することを確認した。

議題5．NEWSLETTER, No.32の執筆分担について

事務局よりNo.32の執筆分担を下記のように提案し、了承を得た。締め切りは、例年どおりの分量によって、1月末までに事務局宛てに送付とした。

巻頭言（香川）、全英教大会報告（徳島）、四英教理事会・総会報告（事務局）、四英教大会報告（高知）、四英教次回大会案内（高知）、全英教大会案内（事務局）、編集後記（事務局）

議題6．平成20年度全国大会（東京研究大会）の「課題研究フォーラム」について

来年度の全国大会「課題研究フォーラム」に、香川県が担当することで承認された。

議題7．紀要編集委員会報告

紀要編集委員会にて検討された同委員会細則承認の要請があり、これを承認した。また、紀要査読者に対して、査読料として、1本あたり2,000円（1人3本まで）を本会予算より出すことが承認された。

総会報告

平成19年6月24日(日)、標記総会が愛媛大学教育学部において開かれ、下記の事項が審議された。

議 事

議題1．役員改選について

高知県の西村淑子氏（高知工業高等専門学校）の退職に伴い、新たに会計監査役として大村潔氏（西条市立西条南中学校）が選出され、承認を得た。

議題2．平成18年度会務報告・会計決算報告並びに会計監査報告について

理事会に提出のとおり、事務局より平成18年度会務・会計決算報告を行い、会計監査報告を行ったのち、了承を得た。

議題3．平成19年度会務・予算案について

事務局より理事会に提出し、変更、承認を経た平成19年度会務・予算案の提示を行い、了承を得た。

議題4．平成20年度（第20回）研究大会（高知）について

次年度の研究大会を高知県支部の担当で、高知大学にて6月21、22日に開催することを報告した。

議題5．平成20年度全国大会（東京研究大会）の「課題研究フォーラム」について

来年度の全国大会「課題研究フォーラム」に、香川県が担当することで承認された。

議題6．紀要編集委員会報告

紀要編集委員会にて検討された同委員会細則と、紀要査読者に対して査読料として1本あたり2,000円（1人3本まで）を本会予算より出すことが承認された。

第 19 回 四国英語教育学会愛媛研究大会報告

平成 19 年 6 月 23 日（土）、24 日（日）の両日愛媛大学を会場として第 19 回四国英語教育学会愛媛大会が開催された。

初日の 13:00～14:30 にかけて、教育学部 103 号会議室にて理事会が開かれた。平成 18 年度会計監査報告、19 年度会務・予算（案）に加えて、平成 20 年度全国大会東京大会で、「課題研究フォーラム」を香川県支部が担当すること、また、第 20 回四国英語教育学会を高知で開催すること、などが協議の結果承認された。また、その夜、大学会館にて懇親会が催され、学会の盛況を祝った。二日目は雨交じりの曇り空の中、約 80 名の参加者の出席のもとに研究発表が行われた。会場となる 403 号室は 150 名ほどが収容できる大講義室であったが、後列には協賛の数社の出版会社の展示が行われるなど、これまでとは少し違う工夫が見られた。開会行事の後、7 つの研究発表が昼食・総会をはさんで 9:50～14:20 に行われた。14:30～16:00 は竹中龍範香川大学教授による特別講演が行われ、16 時過ぎに全日程を終えた。

研究発表の前半は小・中・高・大の観点から小・中連携に関する教師の意識や、話すことと書くことの技能、文型の指導法に関して、いずれも実際の指導の参考となる有益な発表であった。後半は今日世界の教育界で注目の的となっているフィンランドの英語教育に関して、そこでの英語教育の特徴を実証的に示してくれる興味深い研究であった。

階戸陽太氏は石川県の小学校の英語活動担当者と中学校の英語教員を対象としてアンケート調査により石川県の小中連携に関する現状と課題を明らかにした。西原美幸・伊東治己氏は中学 1 年生の英語学習入門期での基本文型の定着度を測定し、英語指導の中核をなす文型の指導について、学習者の知的発達段階に合わせてチャンク概念を活用した指導法を提案した。水田和浩氏はスピーキングの指導と評価を一体化したテストの概要と評価方法に関する実践研究の結果について報告した。テストは ALT との面接の形式で一人約 2 分間行われ、評価の観点は課題文の音読、内容理解、生徒の態度を含む。島田良子氏は高等学校における Extensive Writing の試みとその効果について書く量との関連で調査を行い、その効果と課題について論じた。廣森友人・山西博之氏はこれまでの愛媛大学の共通教育の取り組みを回顧し、大学生の英語学力をつけるためにどのように指導し評価を行えばよいか検討し、学生の実態に応じた独自の取り組みを報告した。

フィンランドの英語教育の研究について、まず、伊東治己・福島知津子氏は日本の高校生との比較を行い、語彙、文、内容の観点から、フィンランドの中学生の英語作文能力を明らかにした。川村亜紀氏はフィンランドの英語教師へのアンケート調査を通して高等学校における英語スピーキング指導の実態を明らかにした。

本研究大会の締めくくりとして、「漱石と英語 特に松山との関わりにおいて」と題して特別講演が竹中龍範氏によって行われた。漱石の略歴と英語教育論、愛媛県尋常中学校教え子の回想、などに関する貴重な資料に基づいて英語教師としての漱石について大変興味深く紹介していただいた。

最後に、愛媛研究大会事務局のご尽力はもちろんですが、四県の理事、および関係者のご協力により本大会もすばらしい大会になったことを報告しておきたいと思います。

（高知県支部長 那須恒夫）

第 20 回 四国英語教育学会高知研究大会案内

標記の研究大会を下記の要領で開催いたします。多数の先生方がご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

記

- 1 期 日：平成 20 年 6 月 21 日（土） 紀要編集委員会・理事会・懇親会
6 月 22 日（日） 研究発表会、総会等
- 2 会 場：高知大学朝倉キャンパス総合研究棟（両日とも）
〒780-8520 高知市曙町 2 丁目 5 番 1 号
- 3 参加資格：四国英語教育学会会員ならびに英語教育に関心のある方
- 4 参加費：会員・学生 1,000 円、非会員 1,500 円（受付にて納入）
- 5 大会事務局：〒780-8520 高知市曙町 2 丁目 5 番 1 号
高知大学教育学部 英語教育研究室 多良 静也
TEL：088-844-8380（直） FAX：088-844-8453（代）
E-mail: tara@cc.kochi-u.ac.jp
- 6 その他：

(1) 自由研究発表については、申込み締め切りは **4 月 26 日（土）必着**です。

発表をされる方は、学会ホームページより所定の申込み用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、E メール（添付ファイル）または郵送にて下記宛にお申込みください。

なお、発表資格は、共同研究発表の場合も含めて、四国英語教育学会会員であることとなっていますので、非学会員で発表を希望される場合は、発表申込みまでに入会手続きをお取りください。

申込先：

〒780-8520 高知市曙町 2 丁目 5 番 1 号 高知大学教育学部 英語教育研究室
第 20 回 四国英語教育学会高知研究大会事務局 多良静也 宛

発表要旨については、申込みのあった発表予定者に書式を別途ご案内しますので、それに従って作成し、**5 月 26 日（月）までに**上記申込み先にお送りください。

(2) 懇親会

- ・ 日時：平成 20 年 6 月 21 日（土） 18：30～20：30（予定）
- ・ 場所：高知市内を予定
- ・ 懇親会は、同日午後の理事会終了後に開催されますが、会員であればどなたでもご参加いただけます。

(3) プログラム(仮)

6月21日(土)

13:00~15:00 紀要編集委員会(総合研究棟 多目的室)

15:20~17:20 理事会 (同 第1会議室)

18:30~20:30 懇親会(高知市内を予定)

6月22日(日)

9:00~9:40 受け付け

9:40~9:50 開会式 (同 第2、3会議室)

9:50~12:05 研究発表

12:05~13:00 昼食 (同 1階ラウンジ他)

13:00~13:30 総会

13:30~14:20 研究発表 (同 第2、3会議室)

14:30~16:00 特別講演 またはシンポジウム(同 第1会議室)

16:00~16:05 閉会行事 (同 第1会議室)

*総合研究棟内で、研究発表の会場が変わる可能性があります。

第34回 全国英語教育学会東京研究大会(案)

日時:平成20年8月9日(土)、10日(日)

場所:昭和女子大学

日程:研究発表の申し込みは、平成20年5月23日(金)締切りで、申し込み方法の詳細は、平成20年4月上旬頃に全国英語教育学会ホームページに提示される予定である。大会案内は5月頃、四国英語教育学会会員に郵送致します。

紀要編集委員会より

『紀要』第28号原稿募集中

四国英語教育学会『紀要』第28号への投稿締切りは4月21日(月)必着となっています。第27号巻末に収載の執筆要領、文献の示し方を踏まえ、投稿規定等は学会ホームページで確認して、奮ってご応募ください。

なお、投稿された論文は、複数の査読委員による査読を経たのち、編集委員会において掲載の可否が決定されるという手続きによって進められますが、掲載が認められた場合には、修正が求められている論文については必要な修正を施して、最終稿をご提出いただくこととなります。この際に、併せて掲載料5,000円をお振込みいただくこととなっておりますので、この点ご了承おき下さい。

編集後記

今年度より事務局が香川から愛媛に移りました。事務局を引き受けたものの、前事務局や松本会長をはじめ、多くの方々の協力を得ながら、早くも1年が経とうとしています。各支部役員の方々や発表者をはじめ、会員の皆様の協力のおかげで、6月の愛媛研究大会も無事終えることが出来ました。今号で案内しましたように、2008年度の研究大会は高知で開催されます。これから本学会の発展のために一生懸命努力して参りますので、会員の皆様からのご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。また、本学会の運営上のことやその他何でもお気づきの点がございましたら、遠慮無く事務局までお知らせ下さいませ。